

【3 スマート農業技術を活用した「営農体系モデル」】

⑧肉用牛（繁殖・肥育）

現状と課題	目指すべき姿	スマート農業機械										
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化等で農家戸数が減少する中、意欲ある担い手においては、規模拡大が進展しており、1人当たりの飼養頭数の増加に対応した、省力化及び生産性向上に資する技術導入が必要。 ○ 特に、分娩間隔の短縮と子牛の事故率低減は、喫緊の課題であり、ICTの活用による効率的な個体管理の充実を進める必要。 ○ ICTの導入に際しては、費用対効果の検証と併せて、地域単位での導入（広域的なネットワーク）についても、検討を進めていく必要。 ○ 肉用牛生産における規模拡大や生産性の向上を図るため、自給飼料生産の分業化を支援するコントラクター組織の軽労化や収量向上を進め、経営安定を図る必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分娩間隔の短縮による生産性向上 ○ 子牛の事故率低減による損耗防止 ○ 広域的なネットワークの構築 ○ コントラクター組織の収量向上による経営安定 ○ 省力化による生産基盤の維持・拡大 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>導入機械名</th> <th>参考価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 発情発見装置</td> <td>約120万円</td> </tr> <tr> <td>○ 自動給餌機(肥育牛)</td> <td>約300万円</td> </tr> <tr> <td>○ 分娩監視装置</td> <td>約50万円</td> </tr> <tr> <td>○ 哺乳ロボット</td> <td>約250万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※発情発見装置、分娩監視装置には別に通信費が必要となる場合がある。</p>	導入機械名	参考価格	○ 発情発見装置	約120万円	○ 自動給餌機(肥育牛)	約300万円	○ 分娩監視装置	約50万円	○ 哺乳ロボット	約250万円
導入機械名	参考価格											
○ 発情発見装置	約120万円											
○ 自動給餌機(肥育牛)	約300万円											
○ 分娩監視装置	約50万円											
○ 哺乳ロボット	約250万円											

